

大学間連携推進に向けてネブラスカ大学・リンカーン校 (UNL) およびカリフォルニア大学・デーヴィス校 (UC Davis) を訪問 -- 木苗直秀学長とともに

大学院生活健康科学研究科長 小林裕和

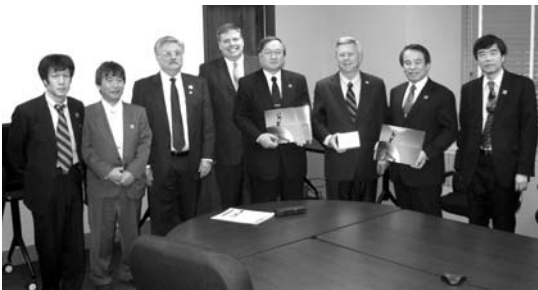
ネブラスカ州は米国の地理的中心に位置し、日本の本州ほどの面積に人より多い数の牛が飼われている。牛肉の生産が米国1位であることもあり、早速ビーフステーキの味覚を楽しんだ。極上品で日本では輸入制限の掛かっている生後21ヶ月以降のものであったことをその後知った。さて、ネブラスカ州との交流は2002年に遡る。この間、州知事および本県知事の相互訪問に加え、ネブラスカ大学のリンカーン校 (UNL) およびオマハ校 (UNO) を2004年に木苗学長が訪問した。2009年10月には、パールマン学長がフローレス食品科学工学科長と共に来学し、本学との大学間協定が締結された。一方、カリフォルニア州は、静岡県と友好交流協定を締結しており、工業・農業において米国1位の生産額を有する。カリフォルニア大学・デーヴィス校 (UC Davis) は、食品栄養・植物関連研究分野では世界でトップクラスの評価を得ている。

11月20日(土)～22日(月)の訪問において、静岡県経済産業部の吉林章仁部長代理と同行できたので、ハイネマン州知事を含む州関係者との会談も

可能となった。本学として、県・州産業連携の一翼を担うべく、大学間連携を深めることの意義は大きい。今回、パールマン学長、フローレス学科長、ブラック生化学科長を含む10名程の研究者と懇談した。食品科学工学科を中心に、生化学科の植物およびバイオメディカル領域にまで輪を広げ、UNL教員による本学での集中講義を来年度から実施することとした。UNLと本学教員による共同研究テーマも多数見いだされたので、学生や若手研究者との研究交流を図りたい。併せて、UNLの英語教育のプログラムも活用することとした。

11月23日(火)は、カリフォルニア州デーヴィスに移動した。小林にとっては、2007年に継ぐ訪問であり、その際、ヴァン・アルフェン農環境科学部長およびバーティス生物科学部長との連携の打ち合わせを行っていた。また、柴本崇行農環境科学部教授には、既に本学客員教授をお引き受けいただいている。今回、レイシー副学長およびサイバー食品科学工学科長と会談し、これまでの実績を踏まえ、大学間連携協定締結を急ぐこととした。

訪問した2大学ともに、乳製品、ブドウ酒、オリーブオイル(写真)等、地元の産業に密着した研究・人材育成に力を入れていた。実りの多い訪米であった。



ネブラスカ州知事(右から3番目)との面談
訪問者全員 UNL の校章“N”を胸に着ける



UNL で生産されたアイスクリーム
木苗学長とフローレス学科長



UC Davis で生産のオリーブオイル